

電気の話

2024(令和 6)年 2 月 26 日、瀬戸こども園で太陽光を使用した電力を園内でも使い、余った電力を売電するシステムが完成。せっかくだから年長の子どもたちに電気の話をすることにしました。

電気のできるしくみはとても難しいですが、電気は目に見えないほど小さな電子という粒がたくさん集まってできていて、その速さは 1 秒で地球を 7 周半するくらいとても速いことを伝えました。速さを実感するために日本地図で自分たちが住んでいる所を探し、旅行で東京や大阪等他都道府県へ行く時、かなりの時間がかかり遠いことをみんなで確認。その後世界地図と地球儀で実は日本の国土は小さく、地球はとても大きいのに「1」と手を打った瞬間に大きな地球の周りを 7 周半できる速さなんてすごいねと子どもたちも感心していました。

次に身近に電気を使用している物をみんなで探しました。子どもたちから「ゲーム」「冷蔵庫」「洗濯機」などいろいろな物の名前があがりました。「もし、電気がなくてこれらが使えなくなったらどうする？寒い時にエアコンが使えないととても寒いよね。瀬戸こども園は電気が止まると水も止まるんだよ。」と言うと子どもたちは「え～困る」と口々に言っていました。坂の上にある園なので、坂の下から電動ポンプで水を押し上げているから停電で水も使えないということです。とにかく電気は生活になくてはならない大切なものだということをつかんだ上で、今使っている電気は発電所で作っているけど、電気を作るのに火を燃やして機械を動かしていると空気が汚れて気温がどんどん高くなり住みにくくなるから、電気を作るのに太陽の光を使うことを話しました。太陽の光はなくなるしないし空気も汚さないからいいこと、大切な電気は大事に使おうねと話すとみんな神妙な顔をしていました。ずいぶん難しい話だったのに最後まで集中してよく聞いていました。4 月には小学生になる子どもたち、いろいろな知識を身に付けて大人になったら世界の他の国にも行って様々な文化や言葉が、人がいることを体験できると良いですね。

